

vivo

水戸芸術館音楽紙[ヴィーヴォ]

8&9

AUGUST/SEPTEMBER
2006

CONTENTS

ミト・デラルコ第9回演奏会	1~2
アフリカ電気親指ピアノ コノノNo.1	2~3
茨城の名手・名歌手たち 第17回	3
SELF PORTRAIT 渡辺泰人	4
最近の公演から	4
ネタマ&プチ情報	5
インフォメーション	6



写真上・左:ミト・デラルコ 上・右:有田正広
写真下:コノノNo.1

モーツァルトに贈る音楽の花束・3 初秋の室内楽 9/9(土) ミト・デラルコ第9回演奏会

モーツァルト生誕250年の熱狂は、ヨーロッパではまだまだ続いています。日本では少し落ち着きを見せている今日この頃です。季節はもうすぐ秋、「モーツァルトの音楽は健康にいい!」とか「波が出る!」といった大騒ぎに心乱されることなく、ヴォルフガング・アマデーウスの音楽をじっくり楽しむにはうってつけの季節と申せましょう。今日は、そんな季節にぴったりの演奏会をご紹介します。ミト・デラルコ第9回演奏会です。

今年の水戸芸術館は、「モーツァルトに贈る音楽の花束」と題し、この作曲家に捧げる音楽会をお届けしてきました。第1弾は、クラリネットの名手カール・ライスターを迎えての、ATMアンサンブル第21回演奏会(4月28日)。晩年の傑作 クラリネット五重奏曲 を中心にしたプログラムで、完売のご好評をいただきました。第2弾は、アンドレアス・シュタイアーのフォルテピアノ・リサイタル(5月12日)。トルコ行進曲 つきピアノ・ソナタなど、モーツァルトの鍵盤作品が2曲演奏されたほか、カール・フィリップ・エマヌエル・バッハそしてハイドンというモーツァルトと同時代の作曲家の鍵盤作品が多数登場、モーツァルトが生きた18世紀の空気が伝わるプログラムでした。そして、「花束」シリーズとは別になりますが、6月に行われた水戸室内管弦楽団第65回定期演奏会は、宮本文昭、工藤重典、吉野直子、ヴェンツェル・フックス、ラデク・バボラーク、ダーグ・イェンセンという超豪華な顔ぶれがソリストを務める協奏曲プログラムにより、圧倒的な興奮に包まれた演奏会となったのは

記憶に新しいところです。

9月9日(土)に行われる、水戸芸術館専属・オリジナル楽器弦楽四重奏団、ミト・デラルコ第9回演奏会は、「モーツァルトに贈る音楽の花束」シリーズの第3弾となります。演奏会の性格は、ちょうどATMアンサンブルとアンドレアス・シュタイアーの演奏会の間、と申せましょうか。モーツァルトの名曲をたっぷりお楽しみいただけると同時に、同時代の他の作曲家の作品も楽しめてしまう、というプログラムです。

しかし、プログラムの各曲について触れる前に、まずスペシャル・ゲストの紹介をさせていただかなくてはなりません。フラウト・トラヴェルソ(フルートの古称で、「横笛フルート」の意)を携えての、有田正広さんの登場です。

有田正広さんは、2002年の1月に水戸芸術館コンサートホールATMで行われたリサイタル「パンの笛 スペシャル・エディション」でご記憶の方も多いでしょう。古今東西、多種のフルートを縦横に吹きこなすこの名手は、奥様の鍵盤楽器奏者・有田千代子さんと共に、複数のフルートと鍵盤楽器を駆使した数世紀にわたるフルート音楽の時間旅行を体験させてくれました。その有田さんの4年半ぶりの水戸芸術館再登場が、ミト・デラルコとの共演によって実現します。

今回の共演曲目は、まずモーツァルトのフルート四重奏曲 第1番 二長調 K.285。モーツァルトがこの編成のために作曲した4曲の四重奏曲

の中でももっとも有名なもので、曲をご存じない方でも、冒頭のすずやかな旋律が鳴り響いた瞬間に、「ああ、あれね」と膝を打たれることでしょう。モーツァルト自身が「自分はフルートの音を好まない」などと手紙に残したのはどう考えても悪い冗談としか思えないほど、この楽器の清冽で優雅な響きが生かされた名曲です。有田さんは1989年に4曲のフルート四重奏曲を録音しており、今もって名盤の誉れ高い一枚となっています(デンオン/アリアーレ)。ちなみにこの録音には、ミト・デラルコのチェロ奏者、鈴木秀美が参加しています。

有田さんは先日、池袋の東京芸術劇場でモーツァルトのフルートと管弦楽のための作品を全曲演奏する、記念碑的な演奏会を行いました。これに平行して録音も行われ、年末には発売される予定です(デンオン/アリアーレ)。ライフ・ワークのひとつとも言うべきモーツァルト作品において大きな達成を成し遂げ、乗りに乗っている有田さんとミト・デラルコの共演、これはもう期待するなと言うほうが無理でしょう。

両者が共演するもう1曲、ドヴィエンヌのフルート四重奏曲も聴き逃せません。フランソワ・ドヴィエンヌ(1759~1803)の名はさほど知られているとは言いがたいのですが、生没年をご覧の通りモーツァルトと同時代を生きた、パリのフルーティスト兼作曲家です。自作を流麗に奏でる名手として、またオペラでも成功作を生み出した人気作曲家として当時名声の誉れ高かった音楽家ですが、晩年は心の病に苦しみ、療養所で悲劇的な死を遂げ



写真左;コノノNo1. ライヴ・アルバム登場! 『Lubuaku』(輸入盤)
写真右;サカキマンゴ(撮影:福岡圭一)

ています。今回演奏されるのは、彼が残した25曲の四重奏曲のひとつで、「作品66」として出版された曲集の一角をなすものです。同じ編成なだけに、モーツァルトの作品とどう違うかが興味深いところですが、ここではあまり先入観をもたず言葉は慎み、当日のお楽しみ、ということにいたしましょう。ちなみに有田さんは意外にもこの曲をまだ録音していないので、今回の演奏はますます聴き逃せません。この曲をあらかじめ聴いておきたい、という方には、バルトルド・クイケンたちの録音があることをご紹介します(輸入盤 ベルギー・アクサン ACC24162)。この録音にはミト・デラルコのヴァイオリニスト、寺神戸 亮が参加しています。

残る2曲のモーツァルトの弦楽四重奏曲も、も

ちろん必聴です。まず 狩 のニックネームで知られる変ロ長調の四重奏曲ですが、これはおそらくモーツァルトの弦楽四重奏曲の中でももっとも有名なもののひとつでしょう。モーツァルトが大先輩ハイドンに捧げるために心血を注いで書いた6曲のハイドン四重奏曲集の第4番にあたる作品です。他の5曲がモーツァルトの作品の中でもきわめて複雑で手の込んだ、かなりテンションの高い音楽となっているのに対し、狩(このニックネームは第1楽章に登場する角笛のファンファーレのような音型に由来します)は比較的すっきりとした近づきやすい音楽で、曲集中の息抜きとなっています。しかし実はこの曲に一番難渋したらしいというのですからわかりません。シンプルなものこそ難しい、ということでしょうか。これでミト・デラ

ルコはハイドン四重奏曲集の6曲のうち、4曲までを演奏したことになります。一方へ長調の作品は、晩年に書かれた3曲のプロイセン王四重奏曲の第3番。つまり、モーツァルトが最後に書いた弦楽四重奏曲です。これを聴いたあとでは狩すら「濃い」音楽に感じられる、晩年のモーツァルトにしばしば見られる澄んだ世界が印象的です。

初秋の心地よい風と共に、モーツァルトの室内楽をお楽しみいただくこの演奏会。当日芸術館のカフェでは、250円の飲み物が無料になるサービスもごさいます。どうぞご期待下さい。また、本公演に関連して、館外公演も行われます。「プチ情報」をご覧ください。 《矢澤》

アフリカ最高の音楽大国コンゴから来襲! 日本で最初のライブが聴けるのは水戸!

8 / 24(木) アフリカ電気親指ピアノバンド コノノNo.1

古くて新しい。力強く優しい。

まだまだ夏は終わっていません。『コノノNo.1』を聴かなきゃ、水戸の夏は終わりません。えっ、まだ「市民会館は古いなあ…」なんておっしゃるんですか?なんのなんの、コノノNo.1の使っている楽器の「古さ」に比べたら、市民会館は最新のハイテク機器のようにピカピカです。前号のvivoで紹介した親指ピアノ(リケンベ)の貫禄もすごいですが、チラシに写っているパーカッション類をご覧ください。これ、元は自動車のホイール?クラクション?その通り、廃車の部品を再生したメタリック・パーカッションなのです。しかしそこから生まれるサウンドのパワー、新鮮さ、精妙さといったら。

さあ、今回は『コノノNo.1』の音楽についてたっぷりご紹介しましょう。彼らのバンドの基本的編成は、まず3つの電気親指ピアノ。ひとつはソロ、ひとつは伴奏、ひとつはベースの役割を果たします。いわば、ロック・バンドのギター類みたいな役割分担ですね(リード・ギターとリズム・ギター、そしてベース)。そして前述のメタリック・パーカッション。さらに、ヴォーカルとダンサーたち。ホイッスルに導かれてパーカッション群がいっせいにリズムの嵐を解き放てば、もう聴き手はいっぺんに持っているかれます。そして、リケンベ。生音では実に繊細な響きを持つ楽器が、アンプにつながるとシンセサイザーのような、エレクトリック・ギターの

ような、それはそれは多彩な音色を!ここですでに桃源郷。そして、「アフリカで一番声が大きい」と言われるコンゴ人の声がコーラスとなって力強いコール&レスポンスを繰り返す。さらに踊り。しかもただノリノリ一辺倒ではなく、時には親指ピアノがミニマル・ミュージックさながらの緻密なアンサンブルも聴かせてくれるのですから、彼らの音楽的キャパシティは底知れないものがあります。

このサウンド、室内乐的な響きに適した芸術館のホールにはおさまりきりません。もっと音の切れのいい会場でやっこ、コノノの魅力は生きるはず。クラシックを芸術館でやるときと同等のこだわりを持って、最上の音楽をそれに適した最上の空間で、という思いから選び抜かれたのが、水戸市民会館なのです。

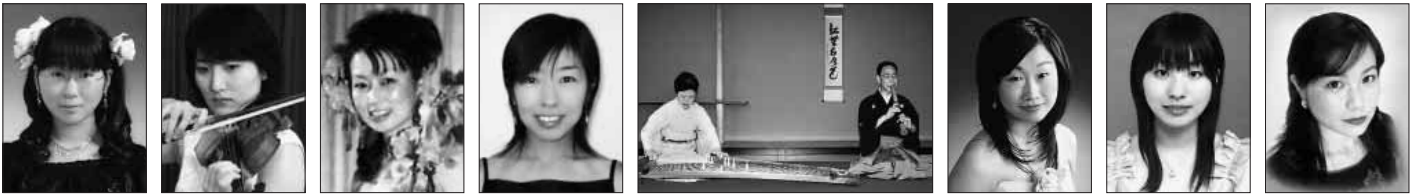
音楽大国コンゴから

さて、そんな『コノノNo.1』を生んだコンゴ民主共和国(旧国名ザイール)、実はサハラ砂漠以南のアフリカでは間違いなくナンバーワンの、(そしてもしかしたらアフリカ大陸一の?)音楽大国なのです。もちろんアフリカ各地には独自の個性を持った民俗音楽が各地で開花していますが、ことにポピュラー・ミュージックにおいて、コンゴの存在と影響力の大きさは比類がありません。

そのコンゴのポピュラー・ミュージックは「リンガラ音楽」と呼ばれます(そのほか、ルンバ・コンゴ

リーズ[コンゴレ、コンゴロワーズの呼称も])。これは、植民地時代にさかのぼる1930~40年代、コンゴの伝統音楽に、ラテン・アメリカ起源のルンバやチャチャチャ、ボレロといったダンス音楽などさまざまな外国音楽の要素が導入されて作り上げられたものだと思います。最初はギターやアコーディオンの弾き語りのようなものだったそうですが、徐々にホーンや打楽器、リケンベやエレクトリック・ギターが加わり、音楽はゴージャスかつ華麗なものとなっていきました。50年代半ばに活躍した巨匠フランコと彼のバンド「O.K.ジャズ」は全アフリカにとどろく人気を博したそうです。その後、ザイコ・ランガ・ランガ、そして今も現役で1980年代以降欧米でもムーヴメントを巻き起こしたパバ・ウエンバとヴィヴァ・ラ・ムジカ(「音楽万歳!」すばらしい名のバンドですね)、ウエンゲ・ムジカといったグループがよりモダンでカッコいいサウンドを追求し今に至っています。コンゴ音楽の底はびっくりするほど深く、日本にはコンゴ音楽レコードの専門店があるくらいです。

『コノノNo.1』は、直接的にはリンガラ音楽の範疇に入るグループではありません。彼らは音楽シーンの中心である首都キンシャサから200km離れた農村を出自としています。しかし、キンシャサに繰り出した彼らが、リケンベをアンプにつないだ瞬間、彼らの伝統音楽は新しい世界に向かって開かれたのでした。その音楽はリンガラ音楽より



「茨城の名手・名歌手たち 第17回」出演者

左から 小川 瞳 牛草葉那 小野智恵 長澤 順 初見宗郷・佳秋 藤田まどか 宮田悠貴 清水美和

いっそうダンスブルでたくましいリズムに貫かれています。リンガラ音楽が持っている人懐こいメロディやコール&レスポンスの快感、腰にぐっとくるファンキーな感じもしっかり注入されており、一度耳にしたらたまらない魅力を放ちます。まさに、都市で華麗に変身したトライバル・ミュージック(民族音楽)なのです。世界規模でブレイクした彼らの音楽は今やコンゴを席卷し、同傾向のグループが次々生まれています(CD『コンゴトロニクス2』でお聴きいただけます)。

生の喜びを満喫させてくれる彼らの音楽ですが、一方で、うちつづくコンゴ内戦でリーダーを除くすべてのオリジナル・メンバーが死亡していたり、教会による伝統音楽の排斥に出会ったり、その歩みは平坦ではありませんでした(コンゴの歴史については、「ネッタマ」をどうぞご覧ください)。彼らのグループ名「コノ」が「野ざらしになった死体」の意味であるということからも、その激烈な生的一端がうかがえます。しかし、そのような境遇を嘆くのではなく、力強い音楽に変えて世界に轟かせる

のが、彼らのすばらしさです。暗いニュースと閉塞感に支配された日本で、なにか生きることに疲れてしまいがちな私たちにとって、今もっとも必要なのは、このような音楽なのかもしれません。

親指ピアノワークショップも実施!

7月半ばに急遽決定しましたが、私たちはアフリカ音楽の魅力を「聴くこと」とどまらず、「弾くこと」を通じての一端を体験していただきたいと思い、「親指ピアノを弾こう!」と題したファミリー・ワークショップを実施することにしました。講師にお招きするのは、日本でも最高の親指ピアノ奏者として活躍するサカキマンゴーさん。種々の親指ピアノを駆使し、独自の音楽活動も行っているマンゴーさんは、この上なくアフリカを愛し、かの地を何度も訪れている、日本とアフリカの橋渡し人です(マンゴーさんのHPは<http://orio.jp/mango/>)。ご家族でお楽しみいただけるこのワークショップ、楽器はこちらでご用意しますので、なにも持ってくる必要はありません。お申込をされたら、身一つ

で8月24日、水戸市民会館においてください。コノのメンバーにも会えるかもしれませんよ!演奏会のチケットと併せてご購入いただければ、ワークショップ参加費は1,000円から500円に割引となります。「弾いた」とは「聴いて」楽しんでください。定員は30名ですので、このvivoが届く頃には受付終了となっているかもしれませんが、その際は了承ください。詳しいお問い合わせは、音楽部門の中村および矢澤までどうぞ。芸術館ホームページ上でも詳しい内容やマンゴーさんのプロフィールをご覧になれます。また、担当者が特別執筆した「コノ通信」などホームページ上にいろいろお得な情報が載っていますので、あわせてご覧ください。(URL:<http://www.arttowermito.or.jp/2006/ongaku/konono1j.html>)

さあ!もう言葉はこのくらいで。まだ迷われている方、今年の夏の最高に楽しい思い出をぜひ。チケットはまだまだございます。ぜひ8月24日、水戸市民会館においてください!アフリカ桃源郷があなたをお待ちしております! 《矢澤》

新世代の名手たちによる個性豊かな演奏に期待!

9 / 30(土)茨城の名手・名歌手たち第17回 司会:畑中良輔

4月15日に行われた出演者オーディション。草木がますますその緑を濃くし、太陽に向かって伸びようとするその季節に呼応するかのごとく、水戸芸術館コンサートホールATMにも将来を有望視される若い音楽家たちが多数集まり、その成長の勢いを競い合いました。

その厳しいオーディションを通過した7人(ソロ)と1組(アンサンブル)が、9月30日に行われる「茨城の名手・名歌手たち 第17回」のステージに登場します。オーディションから約5ヶ月、成長の歩みを止めない「名手たち」は一回り大きくなった姿を見せてくれるに違いありません。

演奏会の幕開けを飾るのはピアノの小川瞳さん。リスト:巡礼の年 第2年 補遺 ヴェネツィアとナポリ から ギンドラの女 と タランテラ を演奏します。リストの難曲が若々しい感性と卓抜な指使いで見事に表現されることでしょう。

2番手はヴァイオリンの牛草葉那さんで、サラサートの カルメン幻想曲 。オーディションではその技術とともに、「これが私の音楽」と言わんばかりの表現の積極性が高く評価されました。演奏家になるには、こういった資質が大変重要なのです。

3番手はピアノの小野智恵さん。パリの名門エコール・ノルマル音楽院への留学経験を生かし、ショパンの バラード 第4番 とドビュッシーの前奏曲集 第2巻 から 花火 が演奏されます。その音色の多彩さに注目です。

ここでコンサートホールからエントランスホールに移動して、パイプオルガンの長澤順さんの演奏を聴きます。バッハ 前奏曲とフーガ 変ホ長調 BWV.552 からの前奏曲が、教会を模した設計のエントランスホールに厳かに鳴り響くことでしょう。

休憩をはさんで5番手に登場するのは、初見宗郷さんと佳秋さんによる尺八と箏のアンサンブル。古今和歌集から秋の歌六首を題材に作曲された吉沢検校の 秋の曲 が、風情豊かに演奏されます。

6番手はピアノの藤田まどかさん。ラフマニノフはピアニストにとって憧れの作曲家ですが、その数多のピアノ曲の中から華やかな技巧性と夢見るような叙情性が交錯する ソナタ 第2番 が選曲されました(当日は第1楽章と第3楽章を演奏)。ダイナミックかつ繊細な演奏が期待されます。

そして、第17回目にして初めて、ハーピストが「名手・名歌手たち」に加わります。高校3年生の

宮田悠貴さんです。ドゥシェクの ハープ・ソナタ とツルニエの 映像 第1組曲(チラシ等でお知らせした 妖精の国 から変更)で、ハーブの美しい響きの世界へ誘います。

演奏会の最後を締めくくるとはピアノの清水美和さん。オーディション時、スクリヤービンの ソナタ 第5番 で圧倒的な演奏を聴かせた清水さんですが、演奏会に選んだのはプーランクの ナゼールの夜会 。プーランクならではの心地よい洒脱さと奇想天外さを存分に楽しめそうです。

以上、個性豊かな顔ぶれが揃うこの演奏会、オーディション審査委員長を務めた畑中良輔氏の司会でおおくりします。どうぞお楽しみに。

《関根》

【お詫びと訂正】

先月のDMに封入されたチラシに誤記がございます。清水美和さんのプロフィール中、『「茨城の名手・名歌手たち 第14回」にアンサンブル奏のメンバーとして出演』とありますが、正しくは『アーク・トリオのメンバーとして出演』です。お詫びして訂正いたします。



渡辺泰人

SELF

PORTRAIT

日立市出身、ウィーンで研鑽を積んだピアニスト・渡辺泰人が問う「ウィーン古典派とスクリャーピン初期の音楽世界」

9 / 3(日)
渡辺泰人
ピアノリサイタル

「ウィーン古典派の本当の魅力とは何なのか？」これは私がピアノを弾き続ける中で、常に大きな疑問となっていました。と言うのもハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンに代表されるこの時代の珠玉の作品の数々に対し、私自身、幼少から単純に好感を持って演奏に向かう自分を発見していたのにも関わらず、何故かどこかで、長年培っていた「学習教材の感覚」を完全払拭出来ずにいたからです。しかし私が抱いていたこの苦悩は、後に

自らのウィーン留学を促すものとなり、振り返れば結果的に良かったと思っています。

そして、強い憧れの念をもって留学することとなったウィーン。この街に生きた様々な作曲家を敬愛する者にとってはまさに聖地とも言えるこの場所で、私自身もピアノの研鑽と共に、日々の暮らしの中で「ウィーンの空気」にたっぷり浸ることが出来ました。そしてより一層見えてきた街と音楽との関係…そこには日本での生活、ひいては隣国ドイツにすら存在しない、長い歴史の中で育まれた独特の「光と陰」が見え隠れしていたのです。そして、そのウィーン的感觉をもって再び彼らの音楽にアプローチし、そこに展開する喜怒哀楽のドラマを改めて感じ取っていくと、知らぬ間に過去の苦悩が掻き消され、今一段と純粹に彼らの音楽を奏でる喜びが溢れるのを感じます。今回のプログラムを通し、みなさんにもそのようなウィーン古典派3人の魅力の一端をお伝え出来ればと思っ

ています。

一方、今回のプログラムの対極をなすスクリャーピンですが、19世紀末の激動のロシアに生き、晩年に向かうにつれ調性崩壊、神秘主義と彼独自の道へ傾倒していくものの、ウィーン古典派以降のロマン派、印象派の流れを彷彿とさせるスクリャーピン初期の豊かな和声感覚には、私自身も以前より強い思いを寄せてきました。また彼は「ベートーヴェン以降における最も重要なピアノ・ソナタの開拓者」と言われていることから、今回のリサイタルでは、ウィーン古典派の作品に彼の初期ピアノ・ソナタを並べることで、スクリャーピンと古典派音楽の関連性にも焦点を当てたいと思っています。

初秋の午後の一時、水戸芸術館コンサートホールATMの空間で、自分自身が魅了された音楽と向き合えることを楽しみにする今日この頃です。

渡辺泰人

最近の公演から

JUNE



1



2



3

1 - 3. 水戸室内管弦楽団第65回定期演奏会

水戸室内管弦楽団第65回定期演奏会
(6月8、9、10日)

水戸室内管弦楽団(MCO)のメンバーが華麗なソロを繰り広げた指揮者なしの演奏会。プログラムは記念年に因んだ「オール・モーツァルト・プログラム」。フィガロの結婚 序曲 で軽やかに幕を開け、オーボエ協奏曲 K.314(285b)、フルートとハーブのための協奏曲 K.299(297c)、クラリネット協奏曲 K.622、協奏交響曲 K.Anh9(297B)(レヴィン復元版)という管楽器による協奏曲の数々をお楽しみいただいた。独奏を務めたのは、MCOの花形管楽器プレイヤー4名、宮本文昭(オーボエ)、工藤重典(フルート)、ダーク・イェンセン(ファゴット)、ラデク・バボラーク(ホルン)と、ゲストのベルリン・フィルの首席奏者ヴェンツェル・フックス(クラリネット)と吉野直子(ハーブ)。親和性に富んだオーケストラを支えとし、ソリストがそれぞれの個性を発揮しながら、明朗で典雅な音楽が次々と繰り広げられた。

6月7日には、水戸市内の小・中・高校生約500人をコンサートホールに招いて、公開リハーサルを実施。さらに、8日は千波公園ふれあい広場で、NHK水戸支局の協力を得て、ステ-

ジの様を生中継する「大スクリーンコンサート」を開催、約2,500人の方たちにご来場いただいた。《中村》アンケートから まさに「贅沢」の一言に尽きると思います。ソリストのそれぞれの個性が見事にあらわれ、All Mozartでも全く飽きない演奏会でした。まだまだ聴きたい!!と思いました。この間近で聴ける水戸芸術館に感謝!!です。(ひたちなか市の方) モーツァルト・イヤーのピカーコンサート!こんなに呼吸があって生氣あふれる指揮者なしの協奏曲が聴けるとは、深い感動と大きな喜びの夕であった。(つくば市: K.E.さん) 宮本文昭の渾身の演奏に感動した。本当に今年度で演奏活動をやめてしまうんですか?(無記名の方) 工藤さんのフルートと吉野さんのハーブは、天使が戯れているようで、ヨーロッパの絵画が想像され、涙が出ました。(K.M.さん) 徐々に日本に帰国してきました。アメリカにいる間、ずっとMCOを聴きたくて、聴きたくて…。音楽がすばらしいというだけでなく、「我らのオーケストラ」だからでしょう。私は水戸芸術館に育てて頂いたんだと思う 今日この頃です。「ただいま!水戸!」という感じがしました。(T.A.さん)



* nettama= ネットワークする猫、タマ。
芸術館のコンサートをサカナにいろん
なところへnettamaします。

コンゴの悲劇

はあ～。ため息が出てしまった。「コノNo. 1」の母国コンゴの歴史について調べていたんだけどね。こないだ映画『ホテル・ルワンダ』を観て、ルワンダの壮絶な歴史に言葉を失ったばかりだが隣国のコンゴも負けず劣らずすさまじい歴史を歩んでいるんだなあ。

面積では世界で12番目の大きさを持つ「コンゴ民主共和国」は、アフリカで2番目に長い(4370Km!)大河コンゴ川の本支流がなす巨大な盆地を中心とする、赤道直下の国だ。豊富な自然に恵まれ、熱帯雨林気候のジャングルにはゴリラが住む。ある湖には、恐竜の生き残りと思しき謎の巨大生物が棲み、目撃談が今も絶えないという。

そんなコンゴの地は、14世紀から15世紀にかけては「コンゴ王国」と呼ばれる強大な王国が支配していた。その領土は今のコンゴ共和国のみならず、現在のガボン南部からアンゴラ北部におよび、しっかりした国家組織と豊かな文化を有していたという。

そのようなコンゴの黄金時代に暗雲を投げかけたのは、ヨーロッパ人たちだった。15世紀末にコンゴ川河口に現れたポルトガル人は、はじめコンゴ王国と友好的な関係を結び、コンゴの国王もカトリックに入信するなど、西欧文明に高い関心を持っていたそうだが、しかしやがてポルトガルはコンゴを黒人奴隷の供給地として利用し始め、王国は衰退の一途をたどる。さらに17世紀にはフランスも進出、19世紀にはベルギーのレオポルド2世が探検家スタンレーを派遣して権益を拡大、コンゴ王国を衰亡に追いやる。そして1885年のベルリン会議で「コンゴ盆地条約」なるものが結ばれ、コンゴはレオポルド2世の「私有地」となってしまうのだ! ちなみにコンゴ盆地の北西部はフランスが分捕り、この「フランス領コンゴ」はのちに独立して現在の「コンゴ共和国」になった(つまりアフリカには「コンゴ」の名を持つ国が2つあるわけだ)。

レオポルド2世は無茶苦茶をやったらしい。

現地人から土地をとりあげ、果実もゴムも象牙も取り放題。ゴムの採取は現地人がやらされたそうだが、目標とする収穫量に達しないと手を切り落とされた、というからすさまじい。あまりの暴虐にさすがに西欧諸国からも非難が集中、1908年にコンゴは正式にベルギー領になる。その後の長い屈従の歴史の末、コンゴの人々が立ち上がったのは第二次大戦後。主に3つのグループからなる独立運動が団結し、1960年ついにベルギーからの独立を勝ち取った。

しかし、もともと多民族からなるコンゴは独立してからも相互の政治的主張が食い違いたちまち「コンゴ動乱」という長期にわたる内戦に突入する。この動乱の過程は複雑怪奇極まりなく、とてもここで書ききれものではないが、火種となったのは、豊かな鉱物資源を有するカタンガ州が分離独立を宣言したことだ。しかしその背後ではカタンガ州の資源を狙うベルギーが暗躍していた。ベルギーのみならず、欧米諸国もカタンガ州の利権に関心があるので態度曖昧、一方コンゴの政府本体(これも内部分裂していたのだが)は東側諸国に援軍を頼むと言った具合で東西冷戦の代理戦争状態。そこに白人傭兵が入り込み、国連軍も介入し、悲惨な内戦は5年にわたって続く。1965年になってようやく事態を収拾したのはクーデターで大統領になったモブツだが、以後モブツは30年にわたる独裁体制を敷いてしまう。71年には国名を「ザイール」(モブツの故郷に由来)に変え、一党独裁体制を推し進めるが、国内の疲弊著しく、ついに90年代半ばに内乱が勃発。このきっかけとなったのが『ホテル・ルワンダ』で描かれたツツ族によるツツ族の虐殺だ。ツツ族の報復を恐れたツツ族は大量にコンゴに流入、コンゴのツツ族と紛争が起こった。この事件を「利用」したのが反政府組織「コンゴ・ザイール解放民主勢力連合(ADFL)」議長のローラン・カピラ(ツツ族ではない)で、ツツ族の軍事力を用いて首都キンシャサを陥れモブツを追放、国名

を「コンゴ民主共和国」に戻した。しかしその過程でADFL軍によってツツ族難民が19万人も殺されたという。『ホテル・ルワンダ』の逆だ。そしてカピラは政権につくとツツ族の切り離しを行ったので、反発したツツ族を中心にまたまた内乱が勃発、そこにアンゴラやジンバブエが干渉したので「コンゴ動乱」以来の国際紛争となる。カピラは暗殺され、息子のジョセフが大統領になってようやく和平への歩みが始まり、2002年のプレトリア包括和平合意でようやく統一暫定政権が誕生する。05年12月には憲法草案に関する国民投票が行われ、今年2月に新憲法が発表された。この7月には初の民主的選挙が行われた。しかし東部地域はいまだに内戦・無政府状態が続いており、住民の苦難はまだまだ続いているようだ。

恐ろしいとしか言いようがない歴史だが、このような塗られた悲劇は多かれ少なかれ他のアフリカ諸国にも共通している。僕たちは、あまりにそれを知らない。そしてその悲劇をもたらしたのは、お気づきの通り欧米諸国による征服、支配、干渉だった。

それでもコンゴには「コノNo.1」の紹介記事にもあるようにアフリカでもっともパワフルな音楽文化が咲き誇り、その炎は消えることがない。オリジナル・メンバーのほとんどが戦乱で死ぬという事態に見舞われても生き延びた「コノNo.1」の音楽にも、その不屈の魂が宿っている。この夏、その魂に触れてみようじゃありませんか。



電気親指ピアノを奏でるコノNo.1のリーダー、マウング・ミンギエティ。

フチ情報 速 達

ミト・デラルコは、第9回演奏会に関連して、館外公演を以下の日程で実施いたします。9月10日(日)所沢市民文化センター MUSE お問い合わせ TEL.04-2998-7777[ミュージックチケットカウンター]*出演者・内容は第9回演奏会と同じ。9月16日(土)福岡市・あい

れふホール(第8回福岡古楽音楽祭) TEL.092-741-9541[18世紀音楽祭協会事務局]*ドヴィエンヌの四重奏曲の代わりに、オーボエの本間正史氏を迎えてのモーツァルトのオーボエ四重奏曲が演奏される、「オール・モーツァルト・プログラム」です。

information

チケットに関するお問い合わせ

...水戸芸術館チケット予約センター / 029-231-8000
営業時間 / 9:30 ~ 18:00(月曜休館)

公演内容や企画に関するお問い合わせ

...水戸芸術館音楽部門 / 029-227-8118

【ATM便り】毎月1回茨城新聞に不定期登場。

NHK-FM 水戸「芸術よもやま話」金曜日 18:15頃 ~ 15分ほど。水戸周辺 83.2MHz、日立周辺 84.2MHz。

茨城放送「田辺昭雄のちよいまじらじお」内「田辺昭雄のなんだっけおじさん ~ ちよいまクラシック」毎週金曜日・朝7:20頃から約5分間 水戸周辺 1197kHz、土浦周辺 1458kHz

チケット・インフォメーション 9月2日(土)発売分

水戸室内管弦楽団第66回定期演奏会
11/18(土)19:00開演、11/19(日)14:00開演
料金(全席指定):S席¥10,000 A席¥8,000 B席¥6,000
水戸室内管弦楽団第67回定期演奏会
12/7(木)19:00開演、12/8(金)19:00開演、12/9(土)19:00開演
料金(全席指定):S席¥13,000 A席¥11,000 B席¥8,000
第66回と第67回のセット券(限定300セット):
S席¥21,000 A席¥17,000 水戸芸術館のみの取り扱いです。

発売初日に芸術館でお求めになれるチケットは、水戸室内管弦楽団第67回定期演奏会ではお1人様1回につき2枚までとさせていただきます。
水戸室内管弦楽団定期演奏会には、友の会の先行予約がありますので、9月2日のチケット発売時には、日付や券種がお客様のご希望に添えない場合があります。ご了承下さい。

これからの演奏会・残席情報

○...残席あり(20席以上) ...残席わずか(20席未満) x...残席なし 中央...中央ブロック 左右・裏...左右ブロックおよびステージ裏 補助...補助席

コノ No.1[会場:水戸市民会館] 8/24(木).....自由席
渡辺泰人 ピアノ・リサイタル 9/3(日).....自由席
ミト・デラルコ 第9回演奏会 9/9(土).....中央x、左右・裏
茨城の名手・名歌手たち 第17回 9/30(土).....自由席
水戸ソリスト室内アンサンブル 第5回定期演奏会
10/14(土).....自由席
井上 修 ピアノ・リサイタル 10/22(日).....自由席

7/30(日)現在の状況です。

公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証(記名章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予めお問い合わせ下さい。

固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

水戸芸術館の主な8・9月のスケジュール

コンサートホールATM

コノNo.1 アフリカ電気親指ピアノバンド
[会場:水戸市民会館 TEL / 029(224)7521]
8/24(木)19:00開演 料金(全席指定):¥4,000
渡辺泰人 ピアノ・リサイタル
9/3(日)14:00開演
料金(全席自由):一般¥2,500 学生(大学生以下)¥2,000
[モーツァルトに贈る音楽の花束 - 3]ミト・デラルコ 第9回演奏会
9/9(土)18:30開演 料金(全席指定):A席¥3,500 B席¥2,500
茨城の名手・名歌手たち 第17回
9/30(土)18:00開演 料金(全席自由):¥1,500

エントランスホール

パイプオルガン プロムナード・コンサート
8/12(土)13:30 / 15:00 8/19(土)13:30 / 15:00
8/20(日)12:00 / 13:30
9/23(土・祝)12:00 / 13:00 9/24(日)12:00 / 13:30

夏休みスペシャル

8/26(土)13:30 / 15:00 出演:浅井美紀(オルガン)
「オルガン名曲ライブラリー」メシアン
8/27(日)12:00 / 13:30 出演:近藤 岳
入場無料 演奏は各回20分程度です。

ACM劇場

水戸市芸術祭 市民演劇祭
茨城大学演劇研究会 8/18(金)19:00開演 料金(全席自由):¥800
演劇事務所99 8/19(土)19:00開演 料金(全席自由):¥1,000
舞踊劇団「創」と「サラダボール」 8/20(日)16:00開演
料金(全席自由):¥1,500
演劇集団「風ノ街」 8/25(金)19:00開演 料金(全席自由):¥800
演劇集団スリーサイズ 8/26(土)19:00開演
料金(全席自由):一般¥1,200 学生(大学生以下)¥1,000
劇団OH-NENS 8/27(日)16:00開演 料金(全席自由):¥800
水戸市民演劇学校卒業公演『宝島 Evolution』
9/9(土)19:00開演、9/10(日)14:00開演 料金(全席自由):¥1,500
第10回水戸短編映像祭
9/16(土)「ピクニックの準備」13:00~ 料金(全席自由):¥1,000
「三年身籠る」15:10~ 料金(全席自由):¥1,000
「NEW HAL&BONS」17:50~ 料金(全席自由):¥1,000
9/17(日)「ライフカードTV-CM」ど〜すんの、ど〜すんのオレ?」
12:30~ 料金(全席自由):¥1,000
「パピリオン山椒魚」14:20~ 料金(全席自由):¥1,300
「向井秀徳シネマの衝動」アコースティックライブ&トーク
18:10~ 料金(全席自由):¥1,500
9/18(月・祝)『コンペティション部門』
12:00~ 料金(全席自由/1日券):¥1,000
詳細はお問い合わせ下さい。TEL / 029(227)8111(代)
野村万蔵によるワークショップ「狂言の世界」
9/23(土・祝)14:00開演 料金(全席自由):¥800
萬狂言水戸公演2006『柑子』『牛盗人』
9/23(土・祝)16:00開演 料金(全席指定):S席¥4,000 A席¥3,000
B席¥2,000 団体(S席10名以上)¥3,600

現代美術センター

「ライフ」展
7/22(土)~10/9(月・祝)9:30~18:00(入場は17:30まで)
休館日:月曜日 ただし9/18(月・祝)は開館、翌9/19(火)は休館。
入場料:一般¥800 前売・団体(20名以上)¥600
中学生以下・65歳以上・各種障害者手帳をお持ちの方は無料

茨城の主な8・9月の演奏会

佐川文庫 TEL / 029(309)5020

アミーチ・クワレテット 9/20(水)18:30開演

常陽藝文センター TEL / 029(231)6611

日中交流演奏会 二胡と尺八の夕べ 9/14(木)18:30開演
(問)鈴城会(横田) TEL / 029(252)5027

茨城県民文化センター TEL / 029(241)1166

森麻季&古澤巖 ファンタスティックナイト Vol.1 8/30(水)18:30開演
鼓童~ONE EARTH TOUR 2006~ 9/20(水)18:30開演

ひたちなか市文化会館 TEL / 029(275)1122

ハーモニカ・チャリティー・コンサート 9/9(土)13:30開演
(問)茨城県ハーモニカ協会(副会長 山本) TEL / 029(285)0884

日立シビックセンター TEL / 0294(24)7711

洋楽文庫 中村絃子 ピアノ音楽の夕べ 9/23(土)18:30開演

日立市民会館 TEL / 0294(22)6481

葉加瀬太郎 CONCERT TOUR 2006 9/10(日)18:00開演
明大マンドリンクラブ演奏会 9/24(日)15:30開演

ギター文化館 TEL / 0299(46)2457

ギターを愛する人のコンサート 8/20(日)13:00開演
李 波 馬頭琴コンサート 9/17(日)15:00開演

スペースの都合で水戸市及び周辺に限らせていただきました。ご了承下さい。

水戸芸術館音楽紙「ヴィーヴォ」 2006年8月発行 第119号

編集・発行 / 水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130

e-mail [ankmr@arttowermito.or.jp] URL [http://www.arttowermito.or.jp/]

編集 / 水戸芸術館音楽部門(五十音順):佐川真美 関根哲也 中崎美智代 中村 晃

馬場千恵 矢澤孝樹(編集長)

DTP / office west

印刷所 / 株式会社あけぼの印刷社

次号は...MCOの指揮台に準・メルクル Returns!